

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 8 月 18 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 23名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3870200676
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 亀天福寿苑 たんぽぽ
記入者(管理者) 氏名	岡本 裕子
自己評価作成日	令和 2 年 7 月 14 日

<p>【事業所理念】</p> <p>「一緒に」「共に」を大切に、私たちは支援します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>避難訓練に家族や地域住民の方に参加してもらう。家族様や地域の方に避難訓練のお知らせをし、家族様に参加してもらうことができた。</p> <p>地域の方の相談支援の場になれるようにする。①趣味の会を通して、地域の方との交流を深める。②健康相談を行う。 ①2か月に1回趣味の会の開催 地域の方へ開催のお知らせ R2年4月よりコロナウイルス感染防止の為開催できず。 ②健康相談実施できず。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は瀬戸内しまなみ海道の橋を眺めることができる小高い位置にあり、利用者は緑に囲まれた静かな環境で過ごしている。17年経った現在においても事業所は清潔面が行き届き、気持ち良い環境が確保されている。職員は利用者のアセスメントから得られた情報を基に「できる」ことを継続していく取組みに力を入れており、利用者が生き生きとした生活を営んでいる様子を家族等へ積極的に伝えている。事業所では、「地域ふれあい活動」を毎月実施し、地域住民に事業所に足を運んでもらう活動に力を入れていたが、新型コロナウイルスの影響のため、現在は活動を自粛している。</p>
--	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	ケアプラン変更時にご意向の確認実施できている。日頃のケアの中で思いをくみ取るように努めている。	◎	/	◎	職員は、利用者の生活史や暮らしに関する意向を聞き取り、日々のケアの中においても思いをくみ取っている。職員は利用者のアセスメントを毎月見直し、新たに得た情報は分かりやすいシートの中に赤字で追記している。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	ケアを行った際の表情や穏やかに過ごされているかなど様子確認し、検討している。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会時やケアプラン見直しの際にご要望を伺い、話し合っている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	ケアプランにあげ、ケアチェック表にて共有し、毎日記録を行っている。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	一職員の判断ではなく、ユニット内全職員で利用者様の状態把握を行い、思いを見出せるようにしている。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	生活歴などについてご自身から聞き取ったり、日頃の会話から情報を得られるように努めている。家族様の面会時などに入所前のことなどを伺っている。	/	/	◎	利用者の生活史や思いについては、職員は家族からも聞き取っている。職員は食量や排泄チェック、健康面のチェックなどが一度に把握できる「暮らしの状況表」を活用し、利用者の日々の生活スタイルの把握に努めている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	身の回りの事やレクリエーションの提供にて、有する能力の把握に努めている。	/	/	/			
c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	個々の職員が得た情報を他職員とも共有できるように申し送りなどを活用している。	/	/	/			
d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	不安定の要因について介護職員が予測を行うだけでなく、看護師に体調や服薬の影響など相談を行っている。	/	/	/			
e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	個々の生活を大切に、対応できるように個別生活援助表の作成を行い、それに沿った支援を実施している。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	御本人からの意向が聞き取れない時に、最善であると思われる本人にとってより良い生活が送れることが目標となるように検討している。	/	/	◎	月1～2回行うユニット会議において、職員間で利用者一人ひとりの情報を共有し、利用者について気になることを検討している。また、事業所では議事録は回覧し、職員間で共有漏れがないよう努めている。
b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人にとってより良い生活が送れるために、どのような支援が適しているか検討している。	/	/	/			
c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	ユニット会などで課題分析し、優先すべき課題を支援することに留意している。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	意向の確認を行い、その思いが出来る限り反映できるように留意している。	/	/	/	介護計画は、利用者や家族の思いを把握した上で、介護職員と計画作成担当者が中心となり作成している。作成した計画は、ユニット会議や担当者会議で話し合い、最終決定している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	ケアプランにあげ、担当者会議に関わる方とケアの方向性について話し合っている。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	できる限りなじみの暮らしができるような計画書の作成を行っている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の方との協力体制はとれていないが、家族様や医療との連携は図れている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	担当者会議録の作成・回覧、ケアチェック表の活用にて、内容の共有ができています。	/	/	◎	介護計画や会議録などは、職員がいつでも確認できるようになっている。職員は計画に基づいた日々の実践を記録し、ユニット会議や担当者会議において1か月ごとに評価した上で日々の支援に活かしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	日々の記録を元にモニタリングし、必要に応じ、介護計画の変更が行っている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	日々のケース記録の項目ごとに暮らしの様子や支援内容を記載することができている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	月1回以上、アセスメントを行い、気づきを記載できている。すぐに実行した方が良いことは申し送りし、実施している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月に1回の定期的見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は3か月に1回見直しを行っている。「行動ケアチェック表」やケース記録に、かわりの中における利用者本人の言葉や職員の気づきを記録し、毎月担当者が計画について評価している。利用者の体調に変化がある場合には、必要に応じて新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	全利用者様のアセスメントを毎月行い、現状確認できている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	目標終了期間に関わらず、体調や身体状況の変化時、退院後など見直しを行い、必要時は新たな計画書の作成を行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	緊急案件時は、日々の申し送り時やユニット会開催にて話し合いを行っている。	/	/	◎	月に1回各ユニット全体の職員会で申し送りをを行い、職員間の情報共有を図っている。また、月に1～2回リーダー会議を開催し、各ユニットの利用者に関する困りごとなどを職員間で共有し、アイデアを出し合っている。緊急案件がある場合には、日々の申し送りなどで話し合いを行っている。会議に参加できなかった職員には議事録を回覧している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ケアに対する意見交換の必要性を理解できおり、話し合っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	可能な限り多くの職員が出席できるように日時を決定しており、参加できている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録の作成を速やかに行い、回覧を行っている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	1日2回の申し送りを実施。申し送り帳への記載にて全職員に周知できている。	/	/	◎	朝と夕の申し送りは、申し送りノートを活用しながら行っている。参加できなかった職員を含め、確認後には印鑑を押すなど、確認したことが後に残るよう工夫している。また、何かあれば、直ぐにその場にいる職員で話し合えるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	日勤職員から夜勤職員、夜勤職員から日勤職員への申し送りをし、確実に伝わるようにしている。各職員で出勤時は申し送り帳の確認を行うことが出来ている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	意思表示できる方には伺ったり、困難な方には選択していただくなどの方法を取っている。	/	/	/	思いを表現できにくい利用者には、日々の観察などを基にして職員が思いをくみ取りながらかわりを持つようにしている。利用者に服やレクリエーションの内容、外出先を選択しやすいよう、職員が選択肢を提供することもある。食事に関する希望についても、職員は給食会議で検討できるような意見を管理栄養士に伝えている。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	食生活や身だしなみなど日常的なことで意思決定できる機会の提供をできる限り行っている。	/	/	/		○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	分かりやすい言葉での問いかけや、身近なことで自己表出できるように配慮している。	/	/	/		/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	お1人ずつの生活習慣などの尊重を行い、負担にならないペースでの支援を心掛けている。	/	/	/		/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	お1人ずつの特性を理解し、その方に応じた話題の提供などに努めている。	/	/	/		/	○
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	意思疎通が困難な利用者様の思いをくみ取るように、関りを増やすことに努めている。	/	/	/		/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	勉強会にて尊厳やプライバシーについて学び、ケア時に活かすことに努めている。	/	◎	○	トイレや入浴の際などは、職員は利用者のプライバシーに配慮した声かけをしている。利用者の居室には、利用者の了承を得て入室し、居室の大きなドア窓には内側からカーテンを引くなど、プライバシーを確保している。		
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	排泄や更衣の際に、羞恥心や自尊心に配慮した対応を心掛けている。	/	/	/		○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	必要以上の露出を控え、ドアやカーテンを開ける事を気を付けている。	/	/	/		/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室へ入る必要時ご本人様の了解を得て入室を行っている。私物をむやみに触らないように気をつけている。	/	/	/		/	○
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	利用者様の個人情報を話したり、書類の持ち出しをしないようにしている。	/	/	/		/	/
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	上からの目線での対応を行わないようにし、利用者様を敬う気持ちで接することを心掛けている。	/	/	/	利用者同士で会話や気遣いができるよう、職員は集まる場所や手伝ってもらうことなどを考慮している。利用者同士の馬が合わない場合には、座る位置を配慮するなど、職員は利用者が楽しく過ごせる雰囲気づくりを心がけている。		
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	いざこざが起きそう時には間に入るなどし、良い関係作りに努めている。	/	/	/		/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	会話のきっかけ作りや、友好的な関係困難時は座席の変更などの配慮も行っている。	/	/	/		/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	中立の立場でトラブルの解消に努め、生活に支障が出ないように気配り行っている。	/	/	/		/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご本人様や家族様から聞き取れた範囲の把握である。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入所時に聞き取れたことと、日頃の会話などから把握に努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	ご本人様や家族様のご要望は取り入れるように努めている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会時には挨拶など心掛け、ご本人様の居室で気兼ねなくお話ししていただけるように配慮している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	その日のご要望に合わすことを毎日ではできていないが、苑庭にて気分転換の時間作りなどは行っている。	○	×	○	利用者は事業所の庭に出て日光浴をしたり、サツマイモを栽培したりして楽しんでいる。また、日常的に散歩をするなど、日々の暮らしの中で利用者が外に出られるよう心がけている。また、地域の住民運動会やお祭りなどの行事に出かけることもある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	苑の行事での外出や家族様との外出は行っている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	外気浴を行ったり、戸外食など戸外のレクリエーションを全利用者様参加にて実施している。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	ご希望あればそれに添えるように努めているが、外出の機会は多いと言えない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	行動・心理症状の背景や要因を考え、緩和できるようなケアに努めている。				職員は利用者ができる限り自分で着替えられるよう、着替えを準備し、見守りや声かけをしている。また、洗濯物たたみや食器の片付け、台拭き、絵を描くなど、職員は利用者のできることを継続できるよう促している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	日常生活をリハビリの機会と捉え、活用に努め、維持・向上を図っている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	時間がかかってもご自身でできることは行っていただくことを意識し、機会の提供や支援を行っている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	日頃の様子や、好まれるレクリエーションからその方の楽しみや役割となる事の把握を行っている。				レクリエーションやおやつ作り、畑での野菜の栽培など、利用者一人ひとりの生活史や得意なことを職員は事前に把握し、利用者の役割や出番を作るよう努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	生活の場面やレクリエーションなどにおいて、その方が快く取り組めることを把握し、行っていただく機会作りをしている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	全利用者様ではないが、地域の文化祭への出品作品作りを行っていただいている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	整髪や着る服の選択を行っていただくこと以外は十分できていると言えない。				フロア内に鏡や洗面台があり、洗面や歯磨きなど自分でできる利用者には声かけや見守りをしながら行ってもらっている。食事中に食べこぼしがある利用者にはエプロンなどを使用して衣服が汚れないよう工夫し、職員はゆっくりと食べるよう声かけをしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ご自身で意思決定できる方はご意向に応じた身だしなみができている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	職員と一緒に考えたり、ご本人様はどうだろうかとという視点で考える事を行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	できる範囲でふさわしい服装になるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	声掛けの仕方に配慮し、ご自身で不十分なところは援助している。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	ご本様や家族様のご意向伺い、決定している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	重度な方に対し、汚染時の更衣や整容支援を行い、身だしなみの保持は出来ている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	健康維持や精神面において、食生活の大切さの理解はできている。				食事は、材料などが揃えられたセットを職員が簡単に調理・盛り付けして提供している。利用者が調理の下ごしらえなどをやる機会はないが、おやつ作りと一緒にするなどの工夫をしている。配膳や台拭きなどを利用者へ手伝ってもらうことで食事準備に参加しているという意識を高め、フロアで職員と一緒に食事をしている。現在は新型コロナウイルス感染予防の観点から、職員は少し離れた位置で食べながら、見守りや声かけをしている。献立は利用者の希望を踏まえて法人の給食会議で検討しており、利用者に応じて塩分やカロリーなどが考慮された食事を提供している。食器類は利用者の使いやすいものを使用している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	毎日行っていない。手作りおやつなどの際にできるところへの参加支援を行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	毎日行っていない。お餅つきなどの際に、力量を発揮していただいたり、達成感を得られるような支援を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握できている。	◎	1人1人の好みやアレルギーの有無について把握できている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	お楽しみメニューを取り入れたり、季節感のある行事や機かしい行事を行っている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	体調に合わせて主食をお粥にしたり、食感や見た目も大切に、工夫を行っている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	その方の状態に合わせた食器選びを行っている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員と一緒に食事でできていないが、気持ちよく食べていただけるように見守りや援助を行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	重度な方への食事介助時に、献立について話しかけたり、味わえるように介助のペースに配慮を行っている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	1人1人の状態に応じ、1日を総体的にみて適切な食事や水分摂取量の確保ができるように支援している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事形態の工夫・時間をおいての声掛け・必要に応じ家族様の協力を得て好みの飲み物の提供を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	栄養状態について、管理栄養士からアドバイスを受けている。献立などについては給食委員会にて意見交換を行っている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食中毒についての勉強会を行い、衛生管理を行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの必要性を理解し、毎食後口腔ケアの実施ができている。				歯科受診時に歯科衛生士から受けた指導を基に、利用者は口腔ケアをしており、職員は見守りや声かけをしている。介助を必要とする利用者には、職員が口の中を確認しながら口腔ケアを行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	介助を行っている方の状態把握は出来ているが、ご自身で口腔ケアを行っている方で状態把握不十分な方もいる。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修に参加した職員から研修内容の報告あり、学んだ。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	手入れ時付き添い、支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	自歯や義歯の汚れ、口腔内の残差物が残っている時の支援を行っている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	ご本人様・家族様と相談し、対応を行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	時間を見ての声掛けに失禁を予防したり、できる限りトイレでの排泄を支援している。				食事量・水分量、排泄回数などが一目で分かる「暮らしの状況表」と排泄チェック表を活用し、職員は利用者一人ひとりの排泄リズムを把握して居室の横にあるトイレへの誘導を行っている。夜間に前止めタイプのおむつを使用している利用者もいるが、昼間は履くタイプのおむつを使用し、職員はできる限り利用者がトイレで排泄できるよう心がけている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	その方に合った緩下剤の服用調整を実施している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェックにて一人一人の排泄状況の把握を行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	適切なおむつやパットの使用ができるように都度検討し、使用している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員間で情報を収集し、改善できるように試行している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表を活用し、声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方向的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄パターンから最適と思われるパットなどの選択を行っている。家族様への状況報告・相談はできている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	日中と夜間、時間帯で使い分けを行っている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	身体を動かすレクリエーションの提供や多めの水分摂取支援を行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	あらかじめ曜日は職員が決めているが、希望があれば調整を行っている。温度や長さなどの対応は行えている。	◎		○	利用者の気分により、時間帯や曜日の変更を行い、週2回の入浴ができるよう支援している。また、職員一人が利用者に入浴前からかわり、ゆっくりと会話をしながら入浴している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	気持ちよかったとの感想を頂いている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	身体機能に応じ、機械浴の実施。洗身などはできるところは行って頂いている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	時間をおいての声掛けや入浴の順番の変更など、柔軟に対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定や全身状態の観察をし、実施。浴後の体調観察も行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者から日勤者への申し送りを実施し、情報共有できている。	/	/	/	職員は夜間不眠傾向の利用者の様子をケース記録に記録することで、他の職員にも利用者の様子が伝わるようにしている。眠剤を使用している利用者も中にはいるが、できる限り使用しない方針である。また、夜間不眠傾向の利用者には昼間なるべく離床してもらい、昼間の活動を行うことで、職員は利用者の生活リズムを取り戻す努力をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	様子観察や日中の生活の活性化に努めるなど工夫をしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	便秘などの体調や日中の様子など予測されることを話し合い、支援を行っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	一律ではなく、お1人づつに応じた休養支援を行っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	ご本人様の希望に添って、電話などの支援を行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙は難しくても簡単なカード作りなど、その方が無理なくできることを手助けしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	希望時は職員が電話をし、取り次いでいる。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	家族様に報告し、対応の相談をしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族様にご本人様希望時、電話をかけてよいかの確認を行っている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	お金を所持する事や、遣うことの意味や大切さを理解しているが、利用者様が金銭管理が出来ない方が多く、トラブルになる危険性が高い為、所持しないようお願いしている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	家族様との外出時に買い物などの機会を持っていただいている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	職員との買い物の機会は実施なし。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	現在施設でお金の所持は行っていない。家族様とお買い物をお長居している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	現在施設でお金の所持をしていないため、話し合う機会は持っていない。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	施設でお金を預かったり、管理は行っていない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	利用者様の状態の変化やニーズに合わせ、提案は行っている。	◎	/	○	利用者から「外食や墓参りに行きたい」という要望があれば、職員はできる限り対応している。また、家族と一緒に居室で巻きずしを食べるなど、その時々々の多様な要望にも対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門戸は開けており、開放的にしている。	◎	◎	○	1階の玄関は自由に入ることができ、ソファも配置され、くつろげる空間となっている。ユニットごとにある玄関は、防犯対策のためインターホンを活用している。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	家庭的で落ち着いた空間となっている。幼稚な飾りつけを行わない様に心がけている。	◎	○	○	利用者の協力を得て作った作品や季節のものが、リビングの壁に飾られている。職員と協力してもらえる利用者は毎日一緒に掃除を行い、清潔な空間が保たれている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日の掃除、定期的な大掃除を行っている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節感のある飾りつけを行い、カレンダー・献立表・広報誌の掲示などにて会話のきっかけ作りを行っている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	居場所の固定をせず、自由に交流してもらっている。居室などで1人で過ごされる時間も持たせている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	カーテンをつけ、配慮している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅よりなじみの物を持ってきていただき、居室においていただいている。	◎		○	居室には馴染みの物などを自由に持ち込むことが可能で、家族の写真や飾り物を置いている。また、新聞を個人で購読し、居室などでゆっくりと読むこともできる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	段差はなく、ゆとりのある空間である。カレンダー・時計・掲示物など、自由に見てもらえるようにしている。			○	建物には段差もなく動きやすい構造であり、広い空間が確保されている。利用者に居室が分かりやすいよう、手すりと同じくらいの高さに飾り物などを一緒に付けた名札を貼っている。利用者が作品づくりをしたり、お手伝いをしたりするなど、様々なことが職員により提供されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	時計やカレンダーは正しく表示できている。異食につながるようなものは近くに置かないようにしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	職員に伝えていただければいつでもお渡しできる状況であるが、いつでも手に取れる状況にはなっていないものが多い。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかける事の弊害は理解できている。防犯上、施錠することがある。	◎	◎	○	職員は鍵をかけることの弊害を理解しているが、防犯面に配慮し、施錠することもある。ベランダなどを活用しながら、職員は利用者ができる限り自由に動くことができるよう努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	運営推進会などで話す機会を作り、理解していただけるようにしている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	見守りにて事故予防を目指すことが重要であることを理解している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者様の状態や問題点などについてその都度話し合い、申し送り等行い、情報共有を行っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日頃からバイタルチェック、様子観察を行い、状態の変化に気付けるように努めている。日々の状態を記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	状態の変化等あれば看護師に報告行い、看護師からかかりつけ医に情報提供書を書いてもらい、情報共有に努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入所時に本人、家族様の意向に合わせ、往診またはかかりつけ病院を決めて頂いている。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	受診時、かかりつけ医と情報共有できるよう家族様に情報提供し、必要に応じ、情報提供書を作成している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後は、受診報告書を記入して頂き、職員間で情報共有している。その後の服薬を含め、体調について家族様へ報告し、次回の受診に向けて話し合っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時にはサマリーを作成し、情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院に訪問し、様子を伺ったり、病院関係者と連絡を取り、情報交換を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	必要に応じて、情報提供書を作成したり、家族様を介し、情報共有を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	状態の変化や気付いたことを看護師に報告し、看護師の指示の下対応している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	必要時、電話などで指示を受けることが出来る。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタル測定を行い、状態観察に努め、異常時は看護師に報告し、対応できている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	内服状況一覧表にて内服薬の情報を確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬ボードを使用し、薬の準備、服薬介助を職員二人体制で確実に服薬できるようにしている。服薬時には名前の確認を行い、服薬後飲み忘れがないか服薬後の薬袋を確認し、チェックしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々の状態観察を行い、変化に注意している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	服薬変更時には職員間で情報共有し、状態の変化等あれば記録をし、看護師へ報告、看護師から家族様や医師へ情報提供行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時の説明にて方針を伝えている。状態変化時は家族様との相談をおこなっている。	/	/	/	職員は家族の意向を踏まえてかかりつけ医に相談し、日々の対応について検討した上で、事業所で過ごせる間に対応している。また、看護職員が各ユニットにおり、看護職員が目で見たい対応もできている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	方針共有のため、関わる全ての方に相談・話し合いを行っている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	ご本人様・家族様と相談し、対応を行っている。家族様にとって最善であることを検討している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	対応方針について、できること・できないことを明確にし、伝えている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族やかかりつけ医とも話を行っている。看取りまでは、行っていないが、看護師から医師への連絡や家族様を通して伝えて頂くようにしている。医師からの指示も、看護師・介護員でH情報を共有し支援している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族様の不安や訴えを聞き、支えられるように支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会のテーマに取り上げ、勉強している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	対応マニュアルの作成を行い、いつでも復習できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染症発生情報を入手し、予防対策を実施している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	感染症発生情報を入手し、適切な対応を行っている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員自身の健康管理、利用者様や来訪者への手指消毒などを実施している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族様の協力にて支援できていることを伝えている。	/	/	/	事業所には、面会や病院受診時に家族が来訪することが多く、職員は利用者の近況を伝え、ケース記録も自由に見てもらえる状況にしている。また、日頃から日々の生活の写真や事業所の「たより」で利用者の様子を伝えている。事業所には地域の認知症高齢者が多く入居していることから、家族の面会時には他の利用者家族と交流することもある。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	日頃より良好な関係作りで土女、面会時にはご本人様の居室で気兼ねなく過ごしていただけるように配慮している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	運営推進会や行事のご案内を行っている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	電話連絡時にの様子を伝えたり、行事の写真の送付を行っている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	「ご心配なことはありますか?」とお聞いている。医療面についてのことであれば、看護師から報告を行うなど対応している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族様の思いもくみ取り、橋渡しができるように努めている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	可能な範囲で報告し、理解・協力を願っている。	/	○	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事等の際に家族様同士でお話して頂けている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	利用者様の状況をきちんと伝え、対応策の提案と一緒に考えて頂いたりしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	連絡事項だけで終わらせずに、気になる事など伺うことを心掛けている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	管理者が行っている。了解得られている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	管理者が行っている。適切な支援を行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	文書の送付。同意を得られている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会や趣味の会・行事へのご案内を行い、事業所のことを知っていただく機会を作っている。	/	◎	/	地域住民には事業所の「ふれあい活動」に参加してもらい、利用者との交流を通じて事業所について理解をしてもらっている。また、公民館での文化祭に展示出品したり、地域の運動会に参加したりして、交流を深めている。地区の防災会議には事業所として出席しており、協力関係が徐々にできつつある。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	公民館の催しへの参加や地域のお祭りの見学など、地域の方との触れ合う機会を作っている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の方がお散歩などで施設前を通りかかった際に、挨拶をして下さっている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	行事や趣味の会に参加して下さっている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶などの様子から好意的にお付き合いして下さっていると感じている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	依頼すれば支援して下さると思われるが、現在は依頼していない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の活用を積極的には行っていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	避難訓練の実施ができています。防災食作り地域の方をご招待行っ	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	家族様・民生委員様の参加がある。	/	◎	△	運営推進会議には家族の参加があり、事業所での出来事や利用者の様子、感想などを伝えているが、メンバーが固定化している。参加が困難な家族には、「職員や運営に関する情報が十分に伝わっていない」と職員は感じている。今後は、事業所として、「たより」の内容を充実したり、運営推進会議へのさらなる参加呼びかけたりするなどの取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	2か月に1回、運営推進会議を開催している。書類作成し運営の報告を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	ご意見を伺い、参考にしてている。できる範囲で取り入れるようにしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	できるだけ出席してもらえるような日程にしている。テーマに合わせた講師の選定を行っている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録を作成し、各ユニットに置いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念を揭示し、全職員に周知おこなっている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	利用者様で理解困難な方には日頃のケアで実践し、かみくだいた言葉で伝えている。	○	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内外の研修について機会ある時には受けてもらっている。	/	/	/	事業所として、毎月職員研修を実施するほか、法人としての研修の機会もある。新人教育は日々の業務リーダーなどベテラン職員につきながら学ぶOJT(職場内研修)を行っている。事業所の管理者は毎朝各フロアに立ち寄り、職員の様子や表情観察し、個別に相談対応するなど、ストレスや悩み事へのフォローをしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	1か月1回以上の勉強会の実施などにてスキルアップできるようにしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	人事考課の基準を明記している。また、管理者が職員の状況を把握し、代表者に伝えている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	他の施設との研修への参加機会を作っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	職員の希望休、リフレッシュ休暇を導入している。全事業所により交流会も行い、交流の場を設けている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	勉強会のテーマに取り上げ、繰り返し勉強し理解できている。	/	/	/	3か月に1回委員会を開催し、身体拘束をしない、スピーチロックやフィジカルロックを減らしていくことを職員間で話し合っている。また、法人としてマニュアルを作成し、職員同士お互いが注意し合える環境が整っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日常的にケアについて職員からの相談に耳を傾け、助言行っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	利用者様への不適切な対応がないか職員間で意識し合っている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員とのコミュニケーションにて確認している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会のテーマに取り上げ、繰り返し勉強し理解できている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	該当なしであると思込まず、対応一つ一つについて身体拘束になっていないか確認している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	転倒など事故予防のためであっても拘束に該当することは実施しないことを理解してもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	勉強は行っている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談あれば対応している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要時は連携が取れるようにしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	対応マニュアルを作成し、職員がいつでも確認できるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	勉強会のテーマに取り上げ、勉強を行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット内容についてミーティングを行い、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	1人づつの状態を把握し、どのようなリスクがあるか把握できている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルの作成、勉強会で取り上げる事はできている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	職員は管理者への報告・相談を行い、管理者が適切な対応に努めている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対しては真摯に受け止め、対応、対策を講じるように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	日頃の会話などから伺えるように努めているが、意思表示困難な方もおられるため、全利用者様からの聞き取りはできていない。			○	職員は利用者から日常生活支援の中で意見を聞き取り、家族からは入居時にアンケートや口頭で要望をしっかりと聞くほか、面会時などにも聞き取りをしている。職員の意見なども踏まえ、リーダー会議やユニット会議などの機会に報告・検討されている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	施設に苦情受付箱の設置・運営推進会議などでご意見をいただく機会を作っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	相談窓口について、掲示してある。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	現場にて業務にも携わり状況把握を行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員から提案しやすい雰囲気作りを努めている。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	全員で自己評価に取り組んでいる。				サービス評価は職員全員で取り組み、日々の業務の中やユニット会議などで検討している。サービス評価結果や普段の取組み状況については、運営推進会議で報告している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	各ユニットに自己評価の書類を設置し、確認できるようにしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成のため、どのように取り組み行うかについて検討している。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	強力で頂ける家族様に協力してもらっている。	○	×	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内で取り組みの成果について話し合っている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	防災マニュアルを作成し、確認している。				防災士の資格を持つ職員が複数名おり、火災や土砂災害、地震などを想定した避難訓練などを行っている。また、訓練には「地域ふれあい活動」を通じて地域住民も参加し、意見をもらえる関係ができています。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	日中、夜間の想定で訓練の実施を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	非常用食料の賞味期限の確認、備品の点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	避難訓練や防災食作りに地域の方をご招待行っ。地域の防災の話し合いに参加できた。	○	△	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	運営推進会などで災害について地域の方と意見交換を行っている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	施設で行っていることを地域の方に知ってもらうことから始めている。				「地域ふれあい活動」を通じて地域住民との交流や話しを聞く機会は増えてきているが、相談を寄せる所まで至っていない。今後は地域住民と交流する機会を増やし、認知症に関する知識の普及啓発などをすることで、地域における認知症の相談窓口として機能することを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	開かれた施設であることを周知できるようにしている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	施設の行事への参加はしてもらっているがその他は実施できていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	実習の受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	他施設・他職種より情報を得られるように努めている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 8 月 18 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 23名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3870200676
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 亀天福寿苑 コスモス
記入者(管理者) 氏名	岡本 裕子
自己評価作成日	令和 2 年 7 月 14 日

<p>【事業所理念】</p> <p>「一緒に」「共に」を大切に、私たちは支援します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>避難訓練に家族や地域住民の方に参加してもらう。家族様や地域の方に避難訓練のお知らせをし、家族様に参加してもらうことができた。</p> <p>地域の方の相談支援の場になれるようにする。①趣味の会を通して、地域の方との交流を深める。②健康相談を行う。 ①2か月に1回趣味の会の開催 地域の方へ開催のお知らせ R2年4月よりコロナウイルス感染防止の為開催できず。 ②健康相談実施できず。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は瀬戸内しまなみ海道の橋を眺めることができる小高い位置にあり、利用者は緑に囲まれた静かな環境で過ごしている。17年経った現在においても事業所は清潔面が行き届き、気持ち良い環境が確保されている。職員は利用者のアセスメントから得られた情報を基に「できる」ことを継続していく取組みに力を入れており、利用者が生き活きた生活を営んでいる様子を家族等へ積極的に伝えている。事業所では、「地域ふれあい活動」を毎月実施し、地域住民に事業所に足を運んでもらう活動に力を入れていたが、新型コロナウイルスの影響のため、現在は活動を自粛している。</p>
--	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思い暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	本人様に希望を伺いながら、生活歴なども参考にして意向をくむようしている。	◎	/	◎	職員は、利用者の生活史や暮らしに関する意向を聞き取り、日々のケアの中においても思いをくみ取っている。職員は利用者のアセスメントを毎月見直し、新たに得た情報は分かりやすいシートの中に赤字で追記している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	ユニット内で話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会時などに最近の状態説明や今後について家族様と話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	利用者様の状態を日々観察し、申し送りやユニット会で職員間の情報共有をしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	日々のコミュニケーションの中から思いをくみ取り対応している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	利用者様との日々のコミュニケーションや家族様との連携を図り、生活歴や好きなことなどを知るようになっている。	/	/	◎	利用者の生活史や思いについては、職員は家族からも聞き取っている。職員は食量や排泄チェック、健康面のチェックなどが一度に把握できる「暮らしの状況表」を活用し、利用者の日々の生活スタイルの把握に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	アセスメントを利用し、出来ること(出来そうなこと)はご自分でして頂くようになっている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	本人様の状態観察を常に行い、ユニット内で話し合い対応している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	本人様の状態観察を行い、ユニット内で共有把握している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	個別生活援助を活用している。日中、夜間の様子を確認し、変化に気付けるようになっている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	ユニット会で意見交換をし、出来るだけ自立支援をしている。	/	/	◎	月1～2回行うユニット会議において、職員間で利用者一人ひとりの情報を共有し、利用者について気になることを検討している。また、事業所では議事録は回覧し、職員間で共有漏れがないよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	介護職、医療職、家族様と情報を共有し、検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	検討した内容に基づいて課題を明らかにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人様に意向を伺い、介護サービスに反映している。				介護計画は、利用者や家族の思いを把握した上で、介護職員と計画作成担当者が中心となり作成している。作成した計画は、ユニット会議や担当者会議で話し合い、最終決定している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	アセスメント、個別生活援助を毎月見直し、担当者会議を開催してケアプランの作成している。	◎			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	本人様のペースで生活ができるようにしている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族様への協力は実施しているが、地域の方への協力は不十分である。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護サービス計画書の確認、記入で職員全員が内容の把握と理解している。				介護計画や会議録などは、職員がいつでも確認できるようになっている。職員は計画に基づいた日々の実践を記録し、ユニット会議や担当者会議において1か月ごとに評価した上で日々の支援に活かしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	介護毎日記入し、毎月評価している。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	実施記録で項目別に個別記入している。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	利用者様の様子や気づいたことなどを細かく記録している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間を確認し見直し出来ている。				介護計画は3か月に1回見直しを行っている。「行動ケアチェック表」やケース記録に、かわりの中における利用者本人の言葉や職員の気づきを記録し、毎月担当者が計画について評価している。利用者の体調に変化がある場合には、必要に応じて新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	アセスメント記録、個別生活援助記録、支援記録を活用している。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	計画書を作成し、必要時には区分変更申請の手続きもやっている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会、職員会、また事故発生時などミーティングを行っている。				月に1回各ユニット全体の職員会で申し送りをを行い、職員間の情報共有を図っている。また、月に1～2回リーダー会議を開催し、各ユニットの利用者に関する困りごとなどを職員間で共有し、アイデアを出し合っている。緊急案件がある場合には、日々の申し送りなどで話し合いを行っている。会議に参加できなかった職員には議事録を回覧している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	お互いの発言を聞き、それぞれに対して話し合いを行っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	当日出勤者にて会議を行っている。出席できない職員には前もって意見を聞き、実施している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	記録に残し、閲覧してもらうことで周知している。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートへの記入、ユニット会の活用が出来ている。				朝と夕の申し送りは、申し送りノートを活用しながら行っている。参加できなかった職員を含め、確認後には印鑑を押すなど、確認したことが後に残るよう工夫している。また、何かあれば、直ぐにその場にいる職員で話し合えるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	毎日の生活記録の申し送り事項に記録出来ている。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	レクリエーションの参加を無理にせず、本人様の意向を大切にしている。本人様からの訴えが少ない状態である。訴えなく、レクリエーションにも楽しく参加されている場合は参加して頂いている。	/	/	/	思いを表現できにくい利用者には、日々の観察などを基にして職員が思いをくみ取りながらかわりを持つようにしている。利用者に服やレクリエーションの内容、外出先を選択しやすいよう、職員が選択肢を提供することもある。食事に関する希望についても、職員は給食会議で検討できるような意見を管理栄養士に伝えている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	声掛けの仕方や本人様の意向や希望を聞くように努めている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	二者択一で答えてもらうような声掛けや分かりやすい言葉を使い、決めて頂いている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人様のペースに合わせて、無理強いしないようにしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	職員のほうから積極的に話しかけ、談笑している。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	本人様の表情や行動に注意しながら支援を行っている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会を実施し、職員一人一人が言葉かけや態度に気をつけている。	/	◎	○	トイレや入浴の際などは、職員は利用者のプライバシーに配慮した声かけをしている。利用者の居室には、利用者の了承を得て入室し、居室の大きなドア窓には内側からカーテンを引くなど、プライバシーを確保している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	耳が聞こえにくい利用者様に聞こえるような大きな声で声掛けをして周りへの配慮が出来ていないこともある。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	ドアやカーテンを開けてプライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	声掛けをして入室するよう気を付けていますが、出来ていないこともある。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報は口外しないようにしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	手伝ってもらったり教えてもらうことも多く、感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	利用者同士で会話や気遣いができるよう、職員は集まる場所や手伝ってもらうことなどを考慮している。利用者同士の馬が合わない場合には、座る位置を配慮するなど、職員は利用者が楽しく過ごせる雰囲気づくりを心がけている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者様同士の関わりを大切にし、職員も手助けしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	席の配置や利用者様同士の関わりに職員が介入し、皆様が落ち着いて関われるよう配慮している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	席の配置や職員が介入し配慮している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人や家族様から話を聞いて職員間で情報共有しているが、わからないこともある。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族様から話を聞いて職員間で情報共有しているが、わからないこともある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	家族様の協力により出来る・出来ないがある。職員から家族様へ連絡している。感染症の流行時は自粛している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	面会所は一緒に過ごして頂けるようにしている。感染症の流行時は自粛している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	感染予防に努めながら、利用者様がストレスにならないよう戸外食をしたり庭に出て気分転換をしている。外出は自粛している。	○	×	○	利用者は事業所の庭に出て日光浴をしたり、サツマイモを栽培したりして楽しんでいる。また、日常的に散歩をするなど、日々の暮らしの中で利用者が外に出られるよう心がけている。また、地域の住民運動会やお祭りなどの行事に出かけることもある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出は家族様のみにお願いしている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調の様子を見て皆さんと一緒に戸外レク行っています。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族様の協力により出来る出来ないが分かれる。感染症の流行時は外出は自粛している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会を実施し、利用者様の状態を把握し支援している。	/	/	/	職員は利用者ができる限り自分で着替えられるよう、着替えを準備し、見守りや声かけをしている。また、洗濯物たたみや食器の片付け、台拭き、絵を描くなど、職員は利用者のできることを継続できるよう促している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	状態観察や申し送り等で情報共有し、利用者様に合った介助・機能訓練を実施している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来ることは出来るだけ自力で出来るよう見守っているが、先回りして介助してしまうことがある。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	やりたいこと・出来ることを見つけ、本人にも話を聞いて役割を見つけてあげ声掛けしている。	/	/	/	レクリエーションやおやつ作り、畑での野菜の栽培など、利用者一人ひとりの生活史や得意なことを職員は事前に把握し、利用者の役割や出番を作るよう努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者様から話が聞けた場合は出来るだけ希望に沿うよう手伝う。主張がない場合は職員から声掛けし手伝ってもらっている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	あまり関わりは持っていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自身で服を選んでいる方もおられる。身だしなみをしている時は見守り、清潔に気を付けたり季節に合った装いが出来ている。				フロア内に鏡や洗面台があり、洗面や歯磨きなど自分でできる利用者には声かけや見守りをしながら行ってもらっている。食事中に食べこぼしがある利用者にはエプロンなどを使用して衣服が汚れないよう工夫し、職員はゆっくりと食べるよう声かけをしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	苑での散髪の実施。身だしなみ・服装を整える声掛けや手伝いしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の意向を確認して支援しているが、職員の考えを押ししていることもある。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節に合った装い、利用者様の好みに合わせ支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	男性利用者様の髭剃り、衣類が汚れたら更衣する等、清潔に努めている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	家族様の協力により実施出来ている。苑での散髪も実施している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	本人様より好きな服装や髪形が聞けないこともあるが、清潔に努めている。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	栄養状態・好き嫌い・摂取状況などを把握し、利用者様の状態を知る上で大切であると理解している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	調理やおやつ作りの際に、出来る事を一緒にして頂く。				○		
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	調理やおやつ作りの際に盛り付けや、一緒に作って頂き、達成感や満足感につなげている。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	本人からの聞き取りや家族様からの情報提供により把握している。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	アレルギー食材の除去。季節のメニュー・お楽しみ献立の提供を行っている。				○		
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	食事形態、排泄状況の確認を行い、利用者様にあった対応を行っている。						
g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	○	使いやすいもの、安全な物を使用している。				◎		
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員は利用者様と食卓を囲んではいませんが、利用者様の様子が分かる所にて見守りしている。食事中は見守りを行い、必要場合は声掛けや介助を行っている。				○		
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事の時間を伝えたり、献立を書いている。食事は皆さん一緒に召し上がっている。			◎	○		
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養スクリーニング実施し、食事量・水分量が確保できるよう必要にお						
k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事形態の工夫や、必要に応じて声掛け介助を行い摂取できるよう支援している。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	給食会議での話し合いを行っている。				◎		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	勉強会で学び職員一人一人が気を付けている。						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会で学び理解している。				歯科受診時に歯科衛生士から受けた指導を基に、利用者は口腔ケアをしており、職員は見守りや声かけをしている。介助を必要とする利用者には、職員が口の中を確認しながら口腔ケアを行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に口腔内の状態を観察し、歯や義歯の状態を把握している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	勉強会にて学んで理解し、毎日の口腔ケアを支援している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯は歯磨き粉を使わずに洗い、夜間に消毒を行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後に口腔ケアを行っている。自分で出来る利用者様も職員が見守り、口腔ケアや手入れ等が不十分なところは手伝い(介助)清潔が保てるよう支援している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	本人様から訴えが無い場合は難しいが、見てわかる義歯の不具合や口腔内の異常は家族様に連絡し、受診してもらっている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強会や日々のケアを通じて、排泄の自立の大切さを共有している。				食事量・水分量、排泄回数などが一目で分かる「暮らしの状況表」と排泄チェック表を活用し、職員は利用者一人ひとりの排泄リズムを把握して居室の横にあるトイレへの誘導を行っている。夜間に前止めタイプのおむつを使用している利用者もいるが、昼間は履くタイプのおむつを使用し、職員はできる限り利用者がトイレで排泄できるよう心がけている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会や看護師より指導を受けている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を活用し、把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	ユニット会で定期的に意見交換を行いながら、オムツの使用や種類を検討している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員間で情報交換し、改善策を検討している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表を活用し、個々の状況に応じて声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	紙パンツ、パッドの使用方法について、職員間で話し合い、ご家族様にも相談する。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	尿量・回数を把握した上で、各利用者様に合せて使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	便秘予防の為、水分摂取や腸のマッサージを行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	本人様のペースに合わせて、入浴の実施が出来るようにしている。温度も本人様に伺いながら行っている。	◎		○	利用者の気分により、時間帯や曜日の変更を行い、週2回の入浴ができるよう支援している。また、職員一人が利用者に入浴前からかわり、ゆっくりと会話をしながら入浴している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	ゆったりとした入浴時間の確保に努めている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来ることは本人様に頂くような声掛けを行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	拒否される場合は、本人様のお話をゆっくりと聞き、時間や順番、日にちの変更をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルの確認や本人の状態の確認を行っている。入浴後の体調変化にも気を付けている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	記録に残し、申し送りを行う事で、パターンの共有を行っている。	/	/	/	職員は夜間不眠傾向の利用者の様子をケース記録に記録することで、他の職員にも利用者の様子が伝わるようにしている。眠剤を使用している利用者も中にはいるが、できる限り使用しない方針である。また、夜間不眠傾向の利用者には昼間なるべく離床してもらい、昼間の活動を行うことで、職員は利用者の生活リズムを取り戻す努力をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	生活状況を把握し、日中、活動的に生活できるように支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	睡眠状況を確認しながら、不眠時に原因の分析を行い薬剤の使用は最終手段として担当医へご相談させて頂いている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人様の訴え時や状態に応じて、休んで頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人様が電話したいと言われた際は、職員が付き添い電話を行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	手紙が届いた際は、本人様にお渡し、返事をどうしたいか確認して頂いている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	電話をされる際は、ゆっくり話ができるように椅子に座って頂き、話しやすい環境を作っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は本人様にお渡ししている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	ご家族様にも理解して頂き、電話をしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を所持することや、使うことの意味や大切さを理解しているが、利用者様が金銭管理が出来ない方が多く、トラブルになる危険性が高いため所持しないようお願いしている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	ご家族様の協力にてご本人様の希望するものを購入して頂いている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	家族様と協力し必要な物は購入をお願いしている。受診時などに家族様と一緒に買い物に行かれるなど対応を行っている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	トラブルの危険性が高い為、所持しないようお願いをしている。今後、お金の所持については、ご家族様とも相談していく。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	利用者様が金銭管理が出来ない方が多く、トラブルになる危険性が高いため、所持しないようお願いしている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金規程を決めている。実際、お金の所持は行ってない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ご利用者やご家族様のニーズに沿う努力はしているが難しい時もあり、ご家族様に協力して頂くことも多い。	◎	/	○	利用者から「外食や墓参りに行きたい」という要望があれば、職員はできる限り対応している。また、家族と一緒に居室で巻きずしを食べるなど、その時々々の多様な要望にも対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	定期的に苑庭や苑周辺の草引きや掃除を行っており、入口や駐車スペースは解放し誰でも気軽に立ち寄れるようにしている。	◎	◎	○	1階の玄関は自由に入ることができ、ソファも配置され、くつろげる空間となっている。ユニットごとにある玄関は、防犯対策のためインターホンを活用している。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	毎月居室や壁画の飾りは季節に合ったものへ変更している。季節の花を飾ることもあり、窓からの景色が良いので天気の良い日はしよまみの景色を楽しんで頂き解放感を感じてもらえるようにしている。	◎	○	○	利用者の協力を得て作った作品や季節のものが、リビングの壁に飾られている。職員と協力してもらえる利用者は毎日一緒に掃除を行い、清潔な空間が保たれている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、換気や掃除を行っておりご利用者様からの苦情はみられない。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	ホールを季節が感じてもらえるような装飾に毎月変更している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	共有スペースにソファを配置し、ゆっくりと過ごせるようにしてる。ソファに一人で座られたりと過ごされる方もいらっしゃる。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	カーテンを使用しプライバシーの保護を行っている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご家族様に協力して頂き、ご本人様が喜んで着られた服を持って来て頂いたり、習慣とされていたことは苑でも続けてもらえるようにしている。(新聞を読む、コーヒーを飲む、人形等を飾る)	◎	/	/	居室には馴染みの物などを自由に持ち込むことが可能で、家族の写真や飾り物を置いている。また、新聞を個人で購読し、居室などでゆっくりと読むこともできる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	手すり、スイングアームの使用、電動ベッドやたみの部屋等、使い分けを行い、利用者様の心身の状態に配慮している。	/	/	○	建物には段差もなく動きやすい構造であり、広い空間が確保されている。利用者に居室が分かりやすいよう、手すりと同じくらいの高さに飾り物などを一緒に付けた名札を貼っている。利用者が作品づくりをしたり、お手伝いをしたりするなど、様々なことが職員により提供されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	本人様が分かりやすいものを使用したり、張り紙や注意書きなどの配置をしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	本人様の好むものや使い馴染みのあるものは、本人様で管理をして頂いたり、家族様の協力のもと実施している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	勉強会や日々の話し合いにて理解しているが、近年、今治市内での不審者が相次ぎ施錠を行っている時もある。利用者様から外に出たいと希望があったり、不穏がある場合は、苑庭を散歩したり、ベランダと一緒に歩いている。	◎	◎	○	職員は鍵をかけることの弊害を理解しているが、防犯面に配慮し、施錠することもある。ベランダなどを活用しながら、職員は利用者ができる限り自由に動くことができるよう努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	地域において解放された施設であることの必要性を説明している。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	見守り、声掛けを行っている。また、一緒にベランダを歩いたり、外出を行い、気分転換を図っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	アセスメントを行い、職員間でも情報の共有をしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	普段から様子観察を行い、変化に注意している。また、申し送りやユニット会で職員間の情報共有を行い、対応時にはケース記録に記載している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気付いたことになった事は、その都度看護師に相談し職員間で情報の共有を行っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	受診報告書にて情報の共有を行っている。本人様やご家族と相談の上、スムーズな受診へと繋げている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族様や本人様の希望する病院を受診され、必要時には看護師より情報の提供を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診時には報告を受け、受診報告書を作成している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	情報提供書やアセスメント表を作成し、情報を伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	家族様に電話で様子を聞いたり、管理者が病院へ伺い、状況把握に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	受診付き添いの家族様に日頃の様子を伝えている。また、医師や地域連携室とその都度連絡を取り合っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気が付いたことや必要時には看護師に報告し、指示をもらったり、看護師より医療機関に情報提供をしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	必要時、電話などで指示を受けることができる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタルチェックの実施。状態の観察の実施。申し送り、職員間での情報の共有を行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	看護師より説明行い、理解することができるように行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬ボードを作成し、活用している。準備・内服・内服後のトリプルチェックを行い、内服時には声掛け行い、確認してから内服して頂くようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	排便確認を行ったり、日常生活や睡眠状態の観察を行い、変化に注意している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	服薬の内容変更時等、特に注意し、変わったことがあればその都度看護師に報告し指示をもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	ご家族へ報告し、必要時には施設長・看護師を交え、相談を行い方針の共有を行っている。	/	/	/	職員は家族の意向を踏まえてかかりつけ医に相談し、日々の対応について検討した上で、事業所で過ごせる間に対応している。また、看護職員が各ユニットにおり、看護職員が目で見えた対応もできている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	ご家族を通じてかかりつけ医等に相談をして頂いている。看護師から病院への連絡も行っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状はどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	利用者様の状態を把握し、必要時家族様への説明や職員への説明を行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	その都度、情報提供を行っている。ご家族に説明し、同意・理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	ご家族を通じて、医療機関への協力を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族とコミュニケーションを取り、必要時は支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	職員会、感染症対策委員会を定期的に関き職員への周知徹底をしている。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作成、勉強会を開いていつでも確認出来るようファイルにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	知りえた情報は資料として回覧している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	情報収集しし共有している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時の手洗い、検温、マスク。来訪者にもマスク、検温の徹底を図る。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	面会時電話時には日常の様子を伝えたり写真を見て頂いて話しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。	/	/	/	事業所には、面会や病院受診時に家族が来訪することが多く、職員は利用者の近況を伝え、ケース記録も自由に見てもらえる状況にしている。また、日頃から日々の生活の写真や事業所の「たより」で利用者の様子を伝えている。事業所には地域の認知症高齢者が多く入居していることから、家族の面会時には他の利用者家族と交流することもある。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	部屋で水入らずで話して頂くなどして気兼ねのない雰囲気を作れるように努力している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	個別外出(家族と食事)敬老会。クリスマス会招待しゲームにも参加して頂いている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	苑だよりで生活の様子を写真も交えて送付している。	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	ヒヤリハット、事故報告、変わったことがあった時はすぐに電話で報告し、家族の意向にこたえる努力はしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	家族との面会、状況の説明をその都度行う。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	運営推進会での報告、質疑応答をしている。	/	○	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	趣味の会開催、交流が図られている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	利用者様の状況を知らせリスクの説明をし双方で良い方向を出せるようにしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	笑顔で穏やかにお話ができ、医師の疎通が図れるよう親しみを込めた対応。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	その都度説明、理解を得ている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去先を探してあげる努力をしている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時や改定時には文書や面談で丁寧に説明、同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	地域の方との交流が出来るように日々の挨拶を行っている。	/	◎	/	地域住民には事業所の「ふれあい活動」に参加してもらい、利用者との交流を通じて事業所について理解をしてもらっている。また、公民館での文化祭に展示品したり、地域の運動会に参加したりして、交流を深めている。地区の防災会議には事業所として出席しており、協力関係が徐々にできつつある。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の方に声を掛け行事参加、趣味の会への参加を働きかけている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	顔見知りも増えてきている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	受け入れる気持ちはあるが気軽にまでは至っていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶は努めて行っている。少しずつではあるが話掛けてくれる人もいる。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	行事にお誘いしているが日常的な支援とまではなっていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	地方祭見物、公民館への作品出展をしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	施設での文化祭への作品募集、及び出展して頂き見学招待。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加される人が決まってきた。	◎	/	△	運営推進会議には家族の参加があり、事業所での出来事や利用者の様子、感想などを伝えているが、メンバーが固定化している。参加が困難な家族には、「職員や運営に関する情報が十分に伝わっていない」と職員は感じている。今後は、事業所として、「たより」の内容を充実したり、運営推進会議へのさらなる参加呼びかけたりするなどの取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	文書と説明できちんと報告出来ている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見には耳を傾け、改善や報告はしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	早めの連絡、曜日の調整を行っている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録を作成し公表している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	いつでも見える場所に理念を掲示、そうよう努力している				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	施設内には掲示しているが十分には伝わっていない。	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	施設内研修、外部研修への参加している。				事業所として、毎月職員研修を実施するほか、法人としての研修の機会もある。新人教育は日々の業務リーダーなどベテラン職員につきながら学ぶOJT(職場内研修)を行っている。事業所の管理者は毎朝各フロアに立ち寄り、職員の様子や表情観察し、個別に相談対応するなど、ストレスや悩み事へのフォローをしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	職員会で役割を決めて実施している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	毎月の目標を定め評価している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	市のグループホーム交流会への参加を促している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	事業所全体での忘年会でゲームをして交流している。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	委員会、勉強会で取り入れている。				3か月に1回委員会を開催し、身体拘束をしない、スピーチロックやフィジカルロックを減らしていくことを職員間で話し合っている。また、法人としてマニュアルを作成し、職員同士お互いが注意し合える環境が整っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	問題についてアドバイスや意見を話合う				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	お互いが注意しあえる雰囲気作り。マニュアルの作成。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	思いやぐちを聞く機会を作り、その都度対応を行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	マニュアルを作成、勉強会を開いていつでも確認出来るようファイルにしている。毎月定期的に勉強会に出席し、周知している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束はしてはいけない事を勉強会で話し合ったり、ユニット会で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族様にはきちんと説明を行っています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	勉強会などや研修で学んでいるも理解出来ない所がある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	情報の提供は行っているものの相談にはあまり乗れていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	情報提供を行っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	実践できるようにマニュアルを作成している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告、ヒヤリハットの検討を行い、情報を共有し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者一人一人の状態、リスクを考え、検討し、事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情が寄せられた場合、速やかに手順に沿って対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた場合、速やかに手順に沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情がある場合は、真摯に受け止め駿馬の報告、対策の検討を行い、職員間での話し合いを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	苦情マニュアルに基づいて苦情があった場合は対応している。			○	職員は利用者から日常生活支援の中で意見を聞き取り、家族からは入居時にアンケートや口頭で要望をしっかりと聞くほか、面会時などにも聞き取りをしている。職員の意見なども踏まえ、リーダー会議やユニット会議などの機会に報告・検討されている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苦情の窓口を設けることができる。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	その都度、情報提供を行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	話し合いが必要な時は直接話を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	リーダー会、ユニット会、担当者会に参加することにより活かしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義を理解し、自己評価に努めている。	/	/	/	サービス評価は職員全員で取り組み、日々の業務の中やユニット会議などで検討している。サービス評価結果や普段の取組み状況については、運営推進会議で報告している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題を明らかにし、現状を知るようにしている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	実践可能な目標を立て事業所全体でとりにくんでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	協力できる家族様には協力してもらっている。	○	×	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成に取り組んでいる。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。	/	/	/	防災士の資格を持つ職員が複数名おり、火災や土砂災害、地震などを想定した避難訓練などを行っている。また、訓練には「地域ふれあい活動」を通じて地域住民も参加し、意見をもらえる関係ができています。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回、昼、夜を想定し避難訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火器、備品の点検を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	苑内での訓練は行っている。その際、ご家族様の参加もみられている。意見交換を行っている。	○	△	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の防災会に参加し情報の交換を行っている。職員が校区の防災訓練に参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	運営推進会議では認知症について話し合いはできているものの、講習会には行っていない。	/	/	/	「地域ふれあい活動」を通じて地域住民との交流や話しを聞く機会は増えてきているが、相談を寄せる所まで至っていない。今後は地域住民と交流する機会を増やし、認知症に関する知識の普及啓発などをすることで、地域における認知症の相談窓口として機能することを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方が来られた際にはお話を聞いたりしている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	趣味の会など開催し声掛けを実施している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	職場体験の依頼があれば受け入れしている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	イベント等、参加出来ていない。包括、他事業所、医療と連携し、情報提供の共有を図っている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 8 月 18 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 23名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3870200676
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏名	岡本 裕子
自己評価作成日	令和 2 年 7 月 14 日

<p>【事業所理念】</p> <p>「一緒に」「共に」を大切にし、私たちは支援します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>避難訓練に家族や地域住民の方に参加してもらう。家族様や地域の方に避難訓練のお知らせをし、家族様に参加してもらうことができた。</p> <p>地域の方の相談支援の場になれるようにする。①趣味の会を通して、地域の方との交流を深める。②健康相談を行う。 ①2か月に1回趣味の会の開催 地域の方へ開催のお知らせ R2年4月よりコロナウイルス感染防止の為開催できず。 ②健康相談実施できず。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は瀬戸内しまなみ海道の橋を眺めることができる小高い位置にあり、利用者は緑に囲まれた静かな環境で過ごしている。17年経った現在においても事業所は清潔面が行き届き、気持ち良い環境が確保されている。職員は利用者のアセスメントから得られた情報を基に「できる」ことを継続していく取組みに力を入れており、利用者が活き活きとした生活を営んでいる様子を家族等へ積極的に伝えている。事業所では、「地域ふれあい活動」を毎月実施し、地域住民に事業所に足を運んでもらう活動に力を入れていたが、新型コロナウイルスの影響のため、現在は活動を自粛している。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	利用者様や家族様に意向を伺い支援している。	◎	/	◎	職員は、利用者の生活史や暮らしに関する意向を聞き取り、日々のケアの中においても思いをくみ取っている。職員は利用者のアセスメントを毎月見直し、新たに得た情報は分かりやすいシートの中に赤字で追記している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	職員同士で話し合いの場を設け情報共有を行っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族様が苑にいられた際や電話で日頃の生活などについて話をしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	ケース記録やユニット会議録、申し送り帳等に記載している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	利用者の方に何かいつもと変わったことなどがなく様子観察を行っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	個人ファイルに目を通し利用者の方がどのような生活を送ってこられたのかを考えながら支援している。	/	/	◎	利用者の生活史や思いについては、職員は家族からも聞き取っている。職員は食量や排泄チェック、健康面のチェックなどが一度に把握できる「暮らしの状況表」を活用し、利用者の日々の生活スタイルの把握に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	更衣や洗濯たたみなど利用者の方が出来る事をして頂いている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	どのような声掛けを行えばよいかその方に合った声掛けを行っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	日勤帯、夜勤隊の申し送りをよく聞き職員同士で話し合っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	日勤帯、夜勤隊の申し送りをいその日どのように生活されていたのかを把握できている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	ユニット会で話し合いケアプランに取り入れている。	/	/	◎	月1～2回行うユニット会議において、職員間で利用者一人ひとりの情報を共有し、利用者について気になることを検討している。また、事業所では議事録は回覧し、職員間で共有漏れがないよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人様、家族様に希望などがなく伺い支援している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	毎月アセスメントの見直しを行い、話し合いをしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人様や家族様に意向を伺い介護計画を立てている。	/	/	/	介護計画は、利用者や家族の思いを把握した上で、介護職員と計画作成担当者が中心となり作成している。作成した計画は、ユニット会議や担当者会議で話し合い、最終決定している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人様、家族様と話し合いそれを元にユニット会で職員同士話し合い介護計画を立てている。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	アセスメントを行いその方らしい生活を送ることが出来る内容にしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の方々との協力体制が不十分である。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	行動ケアチェック表に毎日どのような支援を行っているのかを記入している。	/	/	◎	介護計画や会議録などは、職員がいつでも確認できるようになっている。職員は計画に基づいた日々の実践を記録し、ユニット会議や担当者会議において1か月ごとに評価した上で日々の支援に活かしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎月、行動ケアチェック表に実践の内容や結果などを記入している。ケース記録も使用し、日々の支援に繋げている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	ケース記録を行いその方が毎日どのような発言があったのかどのような事をしたのかを記録している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	ケース記録に入力している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	アセスメント、個別生活援助、防災食などを見直ししている。	/	/	◎	介護計画は3か月に1回見直しを行っている。「行動ケアチェック表」やケース記録に、かわりの中における利用者本人の言葉や職員の気づきを記録し、毎月担当者が計画について評価している。利用者の体調に変化がある場合には、必要に応じて新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月、評価を行い確認を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	利用者の方のADLや何か変化があった時は支援の見直しを行いその方に合った介護計画を作成している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会で職員同士で話し合える機会を作っている。	/	/	◎	月に1回各ユニット全体の職員会で申し送りをを行い、職員間の情報共有を図っている。また、月に1～2回リーダー会議を開催し、各ユニットの利用者に関する困りごとなどを職員間で共有し、アイデアを出し合っている。緊急案件がある場合には、日々の申し送りなどで話し合いを行っている。会議に参加できなかった職員には議事録を回覧している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員1人1人の考えを言うことのできる雰囲気づくりが行えている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	参加することのできない職員には前もって意見を聞いている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	参加できない職員は後日、会議録に目を通し内容を把握できている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	回覧に目を通し情報共有を行う事が出来ている。	/	/	◎	朝と夕の申し送りは、申し送りノートを活用しながら行っている。参加できなかった職員を含め、確認後には印鑑を押すなど、確認したことが後に残るよう工夫している。また、何かあれば、直ぐにその場にいる職員で話し合えるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りをを行い、その日いなかった職員は後日、出勤した時に申し送りに目を通している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと			
(2) 日々の支援												
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	レクリエーションを行い出来るだけ利用者の方の意見を取り入れるようにしている。	/	/	/	思いを表現できにくい利用者には、日々の観察などを基にして職員が思いをくみ取りながらかわりを持つようにしている。利用者に服やレクリエーションの内容、外出先を選択しやすいよう、職員が選択肢を提供することもある。食事に関する希望についても、職員は給食会議で検討できるような意見を管理栄養士に伝えている。			
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	利用所の方に声掛け行いご本人様に決めて頂いている。	/	/	/		○		
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	利用者の方がどの服を着るのかなど答えやすいように声掛け行い決定して頂いている。	/	/	/		/		
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	排泄や入浴の際、拒否される時は時間あけたり違う職員が声掛け行いなどして無理に勧めたりする事のないように工夫しながら支援している。	/	/	/		/		
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	他の利用者の方や職員の楽しく生活して頂けるような雰囲気作りをしている。	/	/	/		/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	その方が何を訴えているのかをよく聞きながら支援をしている。	/	/	/		/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	勉強会を行い職員同士で意見交換を行っている。	/	/	/	◎	○	トイレや入浴の際などは、職員は利用者のプライバシーに配慮した声かけをしている。利用者の居室には、利用者の了承を得て入室し、居室の大きなドア窓には内側からカーテンを引くなど、プライバシーを確保している。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	本人様の側へ行き他者様への配慮に心がけている。	/	/	/	/	○		
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	車椅子を使用している方はカーテンを閉めるなどの対応を行っている。	/	/	/	/	/		
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室の際には声掛けを行うなどの配慮を行っている。	/	/	/	/	/		○
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	勉強会などを行い個人情報の守秘義務を徹底している。	/	/	/	/	/		/
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者の方が洗濯物干しなどを手伝って下さるときは感謝の言葉をお伝えしている。	/	/	/	/	/	利用者同士で会話や気遣いができるよう、職員は集まる場所や手伝ってもらうことなどを考慮している。利用者同士の馬が合わない場合には、座る位置を配慮するなど、職員は利用者が楽しく過ごせる雰囲気づくりを心がけている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	他の利用者の方に「大丈夫で」と気遣いの場面を目にしている。	/	/	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	トラブルになりそう時は職員が間に入り席替えを行うなどして利用者の方が孤立することが無い様子観察を行っている。	/	/	/	/	/		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルになった時は職員が間に入り対応行い職員同士で意見交換を行い楽しく生活して頂けるよう支援している。	/	/	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	家族様にこれまでどのような生活をされていたのかを伺い本人様からもどのような人生であったのかを教えて頂いている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	家族様や本人様から話を伺っている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族様の協力にて友人や親せきの方が面会に来られたり電話にてお話をされている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	インフルエンザの時期などは面会制限をしているが普段は知人や家族様が来られた時は居室にてお話しされている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	毎日、戸外に出てはいないが天候が良い日などに戸外食などを行っている。	○	×	○	利用者は事業所の庭に出て日光浴をしたり、サツマイモを栽培したりして楽しんでいる。また、日常的に散歩をするなど、日々の暮らしの中で利用者が外に出られるよう心がけている。また、地域の住民運動会やお祭りなどの行事に出かけることもある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	家族様との外出のみである。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	声掛け行い職員が戸外へ誘導行い皆さんと楽しんで頂いている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族様と出かけられる事はあるが地域の方とは出かけられる事がない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	勉強会や研修に参加して介護に必要な知識を得ている。	/	/	/	職員は利用者ができる限り自分で着替えられるよう、着替えを準備し、見守りや声かけをしている。また、洗濯物たたみや食器の片付け、台拭き、絵を描くなど、職員は利用者のできることを継続できるよう促している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	勉強会を行い機能低下について意見交換を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	ご自分で移乗や更衣などの出来る方は声掛け、見守り行いご自分で行って頂いている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	アセスメントや日常の会話の中で何がしたいのか伺い支援している。	/	/	/	レクリエーションやおやつ作り、畑での野菜の栽培など、利用者一人ひとりの生活史や得意なことを職員は事前に把握し、利用者の役割や出番を作るよう努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	他の方々と同じレクリエーションが出来ない方は個別にその方の出来るレクリエーションを行い楽しんで頂けるよう工夫している。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域での役割などは行っていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人様に聞いて希望された服を着て頂いている。				フロア内に鏡や洗面台があり、洗面や歯磨きなど自分でできる利用者には声かけや見守りしながら行ってもらっている。食事中に食べこぼしがある利用者にはエプロンなどを使用して衣服が汚れないよう工夫し、職員はゆっくりと食べるよう声かけをしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ご本人様の好きなようにして頂いており理解が出来ていない方には職員が選んでいる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	認知機能の低下もあり職員の言っている事が理解できていない方には職員が選ぶご本人様に確認をしてもらっている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節に合った服装をして頂き、衣替えの季節には家族様に連絡行い洋服を持ってきていただいている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	食べこぼしなどで服が汚れている際は声掛け行い衣服を着替えて頂き、きちんとした服装で生活して頂けるよう支援している。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	希望のある方はご家族様に連絡行い散髪に外出されている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	本人様に合っている髪型、服装であるか職員同士、注意しながら支援行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	ご本人様が食べやすい形状などで提供し、食事を楽しんで頂く事ができるように工夫をしている。				食事は、材料などが揃えられたセットを職員が簡単に調理・盛り付けして提供している。利用者が調理の下ごしらえなどをやる機会はないが、おやつ作りと一緒にするなどの工夫をしている。配膳や台拭きなどを利用者へ手伝ってもらうことで食事準備に参加しているという意識を高め、フロアで職員と一緒に食事をしている。現在は新型コロナウイルス感染予防の観点から、職員は少し離れた位置で食べながら、見守りや声かけをしている。献立は利用者の希望を踏まえて法人の給食会議で検討しており、利用者に応じて塩分やカロリーなどが考慮された食事を提供している。食器類は利用者の使いやすいものを使用している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	買い物や献立づくりは行っていないがおやつ作りなどは利用者の方と職員で行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	おやつ作りの際に利用者の方にも参加して頂き調理、盛り付けを行って頂いている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	アセスメントに目を通したり本人様に伺い把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	季節に合った食材を使用してその時の季節を感じて頂いている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者の方に合わせた食事形態で提供行い丁寧に盛り付けを行っている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	◎	食器類は特に問題なく使用され食事を召し上がられている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者様の食事の様子を観察、見守りを行い必要時介助を行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	献立をお伝えすると「ええ臭いがしよる。」と言われたりおいしく召し上がって頂けるように雰囲気づくりを行っている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	利用者の方が食事を残されている際は声掛け行いなるべく召し上がって頂けるよう支援している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	しっかり召し上がって頂けるようその方に合った食事形態にて提供行い健康状態を維持している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	給食会議にて栄養士にもアドバイスをもらい食事提供を行っている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎週決められた日に布巾などの消毒を行い食事の前には手洗い、消毒を行う事で食中毒の予防を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修を行い参加した職員は他の職員に得た知識を共有して口腔ケアの重要性を理解している。				歯科受診時に歯科衛生士から受けた指導を基に、利用者は口腔ケアをしており、職員は見守りや声かけをしている。介助を必要とする利用者には、職員が口の中を確認しながら口腔ケアを行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	しっかり口腔ケアを行っていただき不十分な方は職員が介助を行い口腔内の清潔を維持している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診に行かれた方は指示どおり口腔ケアを行っていただき清潔を維持できるよう支援している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	食後の口腔ケアの際にきちんと洗えているか確認を行い夕食後は義歯洗浄剤を使用し清潔保持を行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	食後に口腔ケアの声掛けを行い清潔を維持している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	虫歯や義歯の不具合を発見した際は看護師に報告を行い家族様に相談して受診する等の対応を行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	利用者様に合わせておむつやパッドを使用し失禁を減らすことができるように職員間で話し合いを行っている。				食量・水分量、排泄回数などが一目で分かる「暮らしの状況表」と排泄チェック表を活用し、職員は利用者一人ひとりの排泄リズムを把握して居室の横にあるトイレへの誘導を行っている。夜間に前止めタイプのおむつを使用している利用者もいるが、昼間は履くタイプのおむつを使用し、職員はできる限り利用者がトイレで排泄できるよう心がけている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会を行ったり研修に参加して理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を記入して大体の間隔などが分かるようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	毎月、ユニット会を行い職員同士で話し合いながらその方に合っている支援をしている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	ユニット会や看護師に相談を行い改善した方が良い所はないか注意している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表を確認してトイレの時間が空いている方はトイレの声掛け行っても拒否される事もあり時間をおいて声掛けしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	紙パンツがよいのか紙おむつがよいのかなど職員同士で話し合いながら決めている。利用者の方から希望などがあればその際に職員同士で話し合いなるべく希望に添える様検討している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	その方に合ったパンツやパッドを使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	水分をしっかりとり頂くよう声掛け行うなど工夫して支援している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	入浴の拒否があるときには時間を置き再度声掛けを行っている。利用者様毎にお湯の温度など確認しゆっくりと入浴して頂く事ができるようにしている。	◎		○	利用者の気分により、時間帯や曜日の変更を行い、週2回の入浴ができるよう支援している。また、職員一人が利用者に入浴前からかわり、ゆっくりと会話をしながら入浴している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	湯加減などをその方に聞きながら気持ち良く入浴できるようにしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	洗髪や洗身などご自分で出来ることはして頂いている。背部などを職員が介助行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴の声掛けに拒否される日もあり時間をおくなどして利用者の方が納得されて入浴される様工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックを行い体調が良くない時は時間を空けたり後日入浴して頂いている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	申し送りをしその方が昼寝をした時や夜間、あまり眠れていない様子などを申し送っている。	/	/	/	職員は夜間不眠傾向の利用者の様子をケース記録に記録することで、他の職員にも利用者の様子が伝わるようにしている。眠剤を使用している利用者も中にはいるが、できる限り使用しない方針である。また、夜間不眠傾向の利用者には昼間なるべく離床してもらい、昼間の活動を行うことで、職員は利用者の生活リズムを取り戻す努力をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中はレクリエーションに参加して頂くなどしてなるべく身体を動かして頂き、昼夜逆転などない様に支援しているが無理強いはせず居室で休みたいと訴えがあれば休んで頂いている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	夜間、不眠の方は日中の活動量を増やしてはいるがそれでも改善が見られていない様なら看護師に報告を行い看護師の方から医師へ相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室で休みたいと訴えがあれば休んで頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	家族様への電話を希望された時は職員が家族様に電話をして会話していただいている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	ご本人様が希望した時には電話でお話出来るように対応を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	ご家族様の仕事の時間などを考えながら電話できるように配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙やはがきが届いた際はその方にお渡ししている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族様に確認を行い電話がかかってきた際にはお話して頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を使う事の大切さは理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	家族様と外出の際と一緒に買い物に行かれている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	実施できていない。買い物の希望を言われる方が少ない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金を取られたなどとトラブルになる事も考えられる為、お金の所持は控えて頂いている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご本人様やご家族様にお話して所持を控えて頂いている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金規定を決めており本人様、ご家族様に納得して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	職員間でその都度話し合いを行い出来るだけ対応できるように検討を行っている。	◎	/	○	利用者から「外食や墓参りに行きたい」という要望があれば、職員はできる限り対応している。また、家族と一緒に居室で巻きずしを食べるなど、その時々々の多様な要望にも対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	気持ち良く来苑して頂く事が出来るように週に1階苑掃除を行っている。	◎	◎	○	1階の玄関は自由に入ることができ、ソファも配置され、くつろげる空間となっている。ユニットごとにある玄関は、防犯対策のためインターホンを活用している。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	汚れている所があれば掃除を行い清潔に過ごしていただけるよう支援しており壁画なども毎月、変更して季節に合ったものになっている。	◎	○	○	利用者の協力を得て作った作品や季節のものが、リビングの壁に飾られている。職員と協力してもらえる利用者は毎日一緒に掃除を行い、清潔な空間が保たれている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日フロアや居室の掃除を行い清潔に過ごしていただけるよう気を付けている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	その季節に合った壁画を飾るなどして気持ち良く生活して頂けるよう支援している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	フロアで他の利用者の方と談笑されたりソファで過ごされてされている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	カーテンやドアを使用してプライバシーを守っている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	机や椅子、置物、衣類など使い慣れたものを居室に置くようにしている。	◎	/	/	居室には馴染みの物などを自由に持ち込むことが可能で、家族の写真や飾り物を置いている。また、新聞を個人で購読し、居室などでゆっくりと読むこともできる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレや個人の居室の表示を本人様が見てわかるように配慮している。	/	/	○	建物には段差もなく動きやすい構造であり、広い空間が確保されている。利用者に居室が分かりやすいよう、手すりと同じくらいの高さに飾り物などを一緒に付けた名札を貼っている。利用者が作品づくりをしたり、お手伝いをしたりするなど、様々なことが職員により提供されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	共同作業時、共同で扱うものなど使用する場合は見守り、助言を行うようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	種類別に分別して片付け、必要な時に使いやすい場所に出し提供するようになっている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	利用者様、1人での外出、他のフロアの出入りは3階である事に危険が伴う事を理解して頂いている。他の階への移動は職員と一緒に実施し心理的不安や閉塞感を軽減するように配慮している。	◎	◎	○	職員は鍵をかけることの弊害を理解しているが、防犯面に配慮し、施錠することもある。ベランダなどを活用しながら、職員は利用者ができる限り自由に動くことができるよう努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	地域において解放された施設であることの必要性を説明している。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	外出は前もっての電話連絡をして頂いている。外出時は外出届、外泊時も外泊届にて対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	アセスメントの確認にて対応している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日勤者、夜勤者間で朝、夕の申し送りを実施し変化の有無を記録に残し共有している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	各階に看護師が配置されている為、毎日の申し送りにより利用者の状態が報告できている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	往診を希望される方には往診を利用して頂いているが、かかりつけ病院がある方には入所後も継続してご家族様と一緒に通院している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	看護師が情報提供表を作成し、医療との連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診・服薬後の様子を家族様に報告し、その後の通院についても話し合いを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	看護師によりサマリー作成行い暮らしの状況表など必要な情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	管理者により入院時の情報を申し送り、共有できている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	管理者、看護師により実施できている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	各階に看護師が配置されており朝、夕の申し送りで情報の共有が出来ている。医療関係の連絡は看護師が行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護師が休みの日に利用者の状態が悪化が見られた時は看護師に連絡行い指示を仰げるように電話連絡を行っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日勤者、夜勤者間で朝、夕の申し送りを実施し変化の有無を記録に残し共有している。夜勤者により朝、夕の申し送りを実施しており状態の変化を把握するよう努力している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	各階に服薬確認表を置いておりそれを確認している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬は職員2名にて確認行い必ず1人は飲み忘れ等がないか最終チェックを行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	申し送りと看護師の判断、指示により実施している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	申し送りにより看護師に情報提供行い家族と話し合いを実施している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に重度化の話をしている。変化の段階ごとにご家族と話しを行い、意向を確認しながら方針を決めている。	/	/	/	職員は家族の意向を踏まえてかかりつけ医に相談し、日々の対応について検討した上で、事業所で過ごせる間に対応している。また、看護職員が各ユニットにおり、看護職員の目で見えた対応もできている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	家族様を通じて、かかりつけ医などに相談して頂いている。看護師から病院への連絡も行っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員は利用者の状態を管理者へ報告し相談している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	家族様に説明を行い、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	管理者、看護師にて家族様に連絡を取り話し合いを行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	フロアリーダー、計画作成担当者にて家族様に連絡を取り話し合いが行われている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症対策について定期的に看護師により指導を受け勉強会を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	看護師による指導にて体制を整えている。マニュアルを作成している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	管理者により情報を入手し共有できている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	地域の情報収集を行いインフルエンザなどの感染に注意している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	マニュアルを作成し感染予防対策に留意している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	必要に応じて家族に連絡を取り情報を共有している。	/	/	/	事業所には、面会や病院受診時に家族が来訪することが多く、職員は利用者の近況を伝え、ケース記録も自由に見てもらえる状況にしている。また、日頃から日々の生活の写真や事業所の「たより」で利用者の様子を伝えている。事業所には地域の認知症高齢者が多く入居していることから、家族の面会時には他の利用者家族と交流することもある。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	家族様がいつでも来られるよう来苑しやすい雰囲気作りをするよう心がけている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	苑で趣味の会や行事参加の連絡を行い家族様の仕事や用事の都合がつけば参加して頂いている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	封書での連絡、受診時や衣替えなどの来苑時に利用者の方の生活状況などをお伝えしている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族様が来苑された際や電話をかけた際に何かあればいつでも気軽に連絡してもらえようお伝えしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	苑での生活状況を提供している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会などで説明行っている。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	行事や趣味の会を行い家族様同士の交流が行えるようにしている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	利用者の方の日々の生活について話し合いを行っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	家族様の来苑時などになんでも相談してほしい事をお伝えしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	その都度管理者より説明行い納得されている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約時に説明を行っている。退去先の情報提供も行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	運営推進会、または料金の内訳を文書で示し、説明・同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立時に地域の方に案内し、説明を行っている。	/	◎	/	地域住民には事業所の「ふれあい活動」に参加してもらい、利用者との交流を通じて事業所について理解をしてもらっている。また、公民館での文化祭に展示品したり、地域の運動会に参加したりして、交流を深めている。地区の防災会議には事業所として出席しており、協力関係が徐々にできつつある。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	地方祭や文化祭などに参加して交流を図っている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地域の方に来苑して頂き苑の様子を理解して頂く事ができるような行事を行い日頃より挨拶等行い気軽に話しかけて頂く事ができるようにしている。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	苑内の行事に参加して頂くよう声掛けを行っている。また日頃の挨拶などで気軽に話をして頂くことができるように心がけている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	苑での行事案内を行っていただいている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の方やボランティアの方々に案内行い都合が合えば協力して頂いている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	病院や図書館を利用している。駐在所にも立ち寄らせて頂いている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	消防署と連絡を取り年2回は避難訓練実施している。毎月、出張にて散髪を実施している。公民館活動の情報を共有し参加できる行事には利用者様に参加して頂いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	用事や仕事の都合が合えば参加して頂いているが参加人数をもっと増やせるようにしたい。	/	◎	△	運営推進会議には家族の参加があり、事業所での出来事や利用者の様子、感想などを伝えてはいるが、メンバーが固定化している。参加が困難な家族には、「職員や運営に関する情報が十分に伝わっていない」と職員は感じている。今後は、事業所として、「たより」の内容を充実したり、運営推進会議へのさらなる参加呼びかけたりするなどの取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	職員が記録している日常の生活を開示し苑での取り組みを報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	家族様からの意見を取り込みサービス向上に役立てている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	趣味の会を設けるなどして地域の方が参加しやすいように工夫しているが日程や時間帯は苑で決めた日をお伝えしている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録を作成しユニットでの閲覧ができるようにしている。家族様に発信している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	各階、目につく所には事業所理念を掲示している。常に理念を持って行動している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	家族様には入所時に伝えている。ホームページにて閲覧できるようにしている。	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員の資格や経験などで職員一人一人が研修を受けることができるようにしている。				事業所として、毎月職員研修を実施するほか、法人としての研修の機会もある。新人教育は日々の業務リーダーなどベテラン職員につきながら学ぶOJT(職場内研修)を行っている。事業所の管理者は毎朝各フロアに立ち寄り、職員の様子や表情観察し、個別に相談対応するなど、ストレスや悩み事へのフォローをしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	職員全員に対して月1回程度、特に職員会の時に実施している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	職場環境、条件の整備に努めているものと思われる。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	市内のグループホームの交流会に参加し他事業所との意見交換の機会を作っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	その都度職員一人一人と話を聞き対応、相談など対応行っている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	勉強会においてこのような議題は重要なので常に勉強し理解している。				3か月に1回委員会を開催し、身体拘束をしない、スピーチロックやフィジカルロックを減らしていくことを職員間で話し合っている。また、法人としてマニュアルを作成し、職員同士お互いが注意し合える環境が整っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	常にヒヤリハット、事故報告書などで振り返りなどの機会を持っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	全ての職員に周知徹底されているものと思われる。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員が話をしやすい環境を作り対応を行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会などにおいて重要な事柄なので理解されている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	対策会議を行ったり、ユニット内で身体拘束をしてはいけないことを理解することができるように話し合いなど実施している。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	身体拘束を行わなくても良い対応策を考え話し合いなど実施し家族様には伝えている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	勉強会を実施し理解してもらえように行っている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	情報提供または相談などの支援を入所時に行っている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	連携体制を築いている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	対応マニュアルを作成し勉強会でも取り上げている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	勉強会は行っているが訓練を定期的に行っていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書またはヒヤリハットを作成し検討することで再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	利用者1人1人の状態を理解し検討することで出来る限り事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応のマニュアルにて対応を検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情についての対応または市にも報告している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情に対しての速やかな回答また前向きな関係作りを行っている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	絶えず要望や苦情など伺っている。	/	/	○	職員は利用者から日常生活支援の中で意見を聞き取り、家族からは入居時にアンケートや口頭で要望をしっかりと聞くほか、面会時などにも聞き取りをしている。職員の意見なども踏まえ、リーダー会議やユニット会議などの機会に報告・検討されている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苑の玄関にも苦情箱を設置している。家族様が来られた時に何か要望などが無いか伺っている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	市の窓口にも苦情や相談が出来る旨を伝えている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	状況に応じ現場にて職員に対し意見など聞き入れて頂いている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員1人1人の意見、提案を聞き利用者の支援の検討材料としている。	/	/	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	自己評価を行って、ユニット内で話し合いなどを行っている。	/	/	/	サービス評価は職員全員で取り組み、日々の業務の中やユニット会議などで検討している。サービス評価結果や普段の取り組み状況については、運営推進会議で報告している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価を行い見直しし職員間で意見を出し合い行っている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標を立てて達成できるように職員同士で話し合いながら取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	市や家族様に結果を報告行っている。	○	×	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標がどのくらい達成できているか確認しながら支援行っている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	具体的な対応マニュアルを作成し周知している。	/	/	/	防災士の資格を持つ職員が複数名おり、火災や土砂災害、地震などを想定した避難訓練などを行っている。また、訓練には「地域ふれあい活動」を通じて地域住民も参加し、意見をもらえる関係ができています。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	特に消防署などの指導を受け訓練を計画している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	避難訓練を定期的に行っている。非常食は期限の確認をし入れ替えを定期的に行っている。備品等の確認を行い必要時交換など行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	地域の防災会に参加し地域の防災活動や危険地域などの情報収集を行っている。	○	△	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	防災担当の職員が地域の防災訓練や防災会に参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	特に具体的には地域に向けての情報発信また啓発活動には取り組んではいない。	/	/	/	「地域ふれあい活動」を通じて地域住民との交流や話しを聞く機会は増えてきているが、相談を寄せる所まで至っていない。今後は地域住民と交流する機会を増やし、認知症に関する知識の普及啓発などをすることで、地域における認知症の相談窓口として機能することを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	苑を訪ねて来られた時や機会があれば相談支援を行っている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	趣味活動の場として趣味の会を開催して参加を呼び掛けている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	資格取得の際の実習の受け入れを行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	地域のイベントなどがあれば行事として参加している。	/	/	○	